

子どもの集いが大切にしていること



「子どものようにならなければ、決して天の国に はいることはできない。」

(マタイ18:3)

「子どもたちを来させなさい。私のところに来るのを妨げてはならない。」

(マタイ19:14)

子どもたちは神さまを感じる素晴らしい力を持っています。子どもたちの賛美には大きな力があります。教会で親子が共に神さまを感じて歩むことこそ、子どもたちの「たましいの教育」「心の成長」につながると私たちは考えています。だからこそ、川口基督教会では聖餐式を子どもたちと一緒に守るのです。

「子どもの集い」は2002年に今の形でスタートしました。その中で成長した子どもたちは今、青年となっています。礼拝奉仕や青年活動に携わる彼らの姿は、私たちスタッフに大きな力を与えてくれています。

また乳児から青年、大人までがひとつになって活動している姿こそ、教会が一つの家族であると感じさせてくれるのです。

教会へお子さんと一緒に行ってみたい方、是非お越し下さい。親子で教会につながり、愛と祈りを持って一緒に子育てしませんか？お待ちしております。

聖餐式で《子どもの集い》が大切にしていること

聖餐式の時、私たち子どもの集いのスタッフは、基本的に子どもたちと共に前の席に座っています。前の席なら、聖餐式で行われている様々なことに子どもの意識を向けさせやすいからです。

しかし、乳幼児（0～3歳ぐらい）の場合、泣いたらどうしよう…騒いだらどうしようと不安に思われると思います。子どもたちが落ち着かない状況の時は、子どもたちの気持ちが落ち着くまで、いったん礼拝堂から出て下さって、もちろん大丈夫です。

また第4週目は「子どもとともにささげる聖餐式」ですので、式文の内容がわかりやすくなっています。代祷や奉献など、子どもたちの礼拝奉仕もあります。昼食後、ジョイジョイクラブという活動もありますので、初めてお子さんを連れて教会に来られる場合は4週目がおすすです。

幼稚園から小学校低学年の子どもの場合、私たちスタッフは、子どもたちが静かにしていることが大切なのではなく、礼拝すること（神さまに心をむけること）を学ぶことが大切だと考えています。ですから、おもちゃ、本、お絵かきなど礼拝に関係のないものは、できるだけ持たせないようお願いしています。これを習慣化してしまうと、礼拝すること（祈ること）が難しくなるからです。

しかし、禁止しているわけではありません。すべてにおいて「こうあるべき」「こうしてはならない」と思うのではなく、一緒に歩いて行くことを目指しているのです。実は、私たちスタッフも日々悩みながら、子どもたちと聖餐式を守っています。子どもは一人一人全く違いますし、その日の状態も様々です。不安に思われるお父さんやお母さんの気持ちをどういう形でお手伝いすれば和らげることができるのか、本当に難しいことだと感じています。

でも、子どもたちは大人の様子を見ています。大人が真剣に祈る姿は、いつか必ず子どもたちを愛に満ちた心に導きます。すべての親と子の心に「神の愛」がみちあふれることを祈りながら、ともに聖餐式を守っているのです

（川口基督教会 子どもの集いリーダー）